

えほんのおへや通信



サンガこども園

2018年7月1日(日)発行 サンガこども園 ☎046-255-0148

夏至は夏真っ盛りという意味ですが、梅雨の最中でその実感がなく過ぎ去りました。実感としての夏は一月先、これから本格的な夏到来といえましょう。

サンガこども園で定期購読しています福音館書店の月刊幼児絵本「こどものとも」7月号の紹介。

<p>こどものとも 0.1.2 10ヶ月～2歳向き</p> <p>「つんこんぱっ」 こべんなな 作</p> <p>「つんこんぱっ」「おーんぼくりこ」「ごどりごぞりぞり」……。ページをめくると、ユニークな言葉と共に不思議な形が現れます。カラフルな色彩が魅力の楽しい絵本です。</p> 	<p>こどものとも 年少版 2～4歳向き</p> <p>「なつをみつけたよ」 平野 恵理子 作</p> <p>「あさがおがさいてるよ」。かきごおり、入道雲、線香花火…。まわりを見渡すと、ほら、ここにもあそこにも夏はいっぱい！</p> 
<p>こどものとも 年中向き 4～5歳向き</p> <p>「ねこのごろんた」 鍋田 敬子 作</p> <p>「ごろんた」は、いばりんぼうの困った猫。遊び場を一人占めしたり、乱暴をはたいたり。あんまり乱暴が過ぎるので、周りの猫たちから嫌われてしまいます。そんなあるとき・・・</p> 	<p>こどものとも 5～6歳向き</p> <p>「まなつのかわ」 菊池 日出夫 作</p> <p>真夏のある日、ひでちゃんは、近所の友だちと川へ遊びに行きます。ばしゃばしゃと水に入って遊ぶのはもちろん、網やヤスで魚をつかまえたり、石で流れをせきとめていけすを作ったり、向こう岸まで泳いだり。</p> 
<p>ちいさなかがくのとも 3～4～5歳向き</p> <p>「かぶとむしが にげた！」 たしろ ちさと さく</p> <p>ぼくの大事なカブトムシが、虫かごから逃げちゃった！ちゃんとふたを閉めておいたのに、どうして外に出られたんだろう？ 座布団の下や、机の下、おもちゃ箱の中を探しても、ぜんぜん見つからない。どこにいったんだろう……。</p> 	<p>他にこんな絵本も購入しました。</p> <p>「ともだちおまじない」 著者 内田 麟太郎 (作), 降矢 なな (絵) 3歳から</p>  <p>偕成社</p> <p>ともだちがほしい人にだけきく素敵なおまじない！ 五七五のリズムにのってページを繰れば、きっとともだちができるはずです。</p> <p>※年齢は目安です。</p>
<p>【雑感】</p> <p>七夕は端午の節句などと並ぶ日本の五節句の一つですが、その歴史や由来は面白いです。7月が一般的ですが、北海道の広い地域では8月に行われます。</p> <p>竹に短冊という装飾は江戸時代に定着したらしいです。この短冊の起源は梶の葉だったといえます。細かい毛の生えた葉には筆で文字が書けます。葉なら川に流しても問題はありません。実りの秋を前にした豊作祈願やお盆の行事と重ねる地域もあるため、ナスやキュウリなどを窓辺に飾る地域も多いそうです。収穫を前に女性の穢(けが)れを払うという文化的意味合いが七夕の背景にはあるようです。</p> <p>若い女性が水辺で身を浄めて神への貢ぎ物として機織りをしたという七夕の伝説はなんとも興味深いではないでしょうか。</p> 	